

沖縄総合事務局庁舎の建設に着手

行政サービスの向上と、迅速な災害対策活動が行える防災拠点に

仕事の窓

開発建設部 BUSINESS REPORT 2



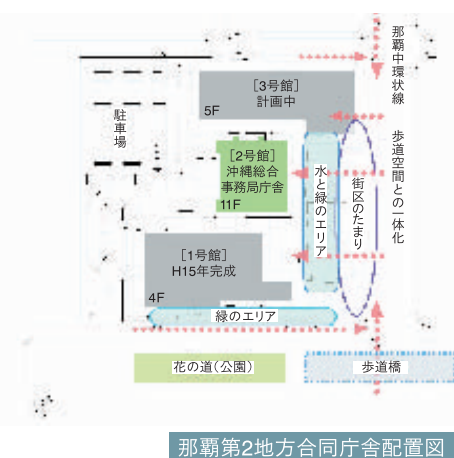
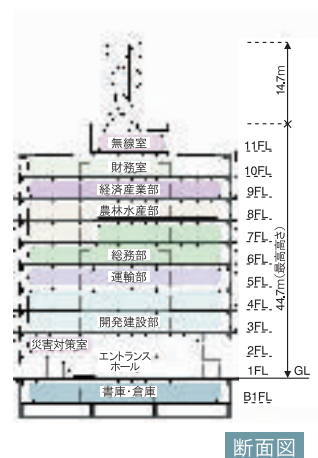
施設概要
 (1)位置 ●建設場所／沖縄県那覇市おもろまち2-1-1 ●敷地面積／22,437㎡
 (2)規模・構造 ●鉄骨造一部鉄骨鉄筋コンクリート造(地上11・階地下1階) ●延べ面積／16,128㎡
 (3)工期 ●平成17年11月～平成20年3月



沖 縄総合事務局の新庁舎(那覇第2地方合同庁舎2号館)は、現在入居している施設の老朽・狭隘の改善及び借上げを解消し、行政サービスの向上を図ると共に、迅速な災害対策活動が行える防災拠点とすべく、那覇新都心シビックコア地区に整備するものです。この度、新庁舎の建設工事に着手しましたので、その概要をお知らせします。今後は、平成二十年三月の完成を目指して建設工事を進めていく予定です。

計画概要

建設敷地は、平成十一年に承認された那覇新都心シビックコア地区内にあり、庁舎全体の設計にあたっては、魅力と賑わいのある地区づくりを推進する方針に基づき、敷地周囲に歩道と一体となったオープンスペース(たまり空間)を設ける等、利用する人々や周辺の環境に寄与できる計画としています。沖縄総合事務局は、災害基本法において内閣総理大臣が指定する指定地方行政機関となっており、新庁舎には専用の災害対策諸室を設



置し「官庁施設の総合耐震計画基準」に基づき、構造・建物各部位・設備機器類が所要の性能を満足するよう計画しています。また、地球環境を守るため、庁舎全体を環境配慮型官庁施設(グリーン庁舎)とし、屋上緑化・太陽光発電・ノンフロン化等、各種の環境負荷低減対策を行います。

設計概要

●エントランスホール

吹き抜け空間により、広場や上階と視覚的につながることで、わかりやすい動線を確保しています。琉球石灰岩・琉球ガラス等を使用し、風土と調和した空間づくりを行っています。



エントランスホール

も開催できるスペースとして整備します。



行政情報プラザ

●事務室

大部屋形式奥行き約一〇m、幅約四〇mとし、業務体制の変化に対応できるよう配慮しています。床は、全面OAフロアとし、照明は外光センサーで適正な明るさに調整します。



事務室

●災害対策室

災害時に、迅速な対応が行えるように専用の災害対策室を二階に設置しています。また、両側に会議室を設置しており一体的な利用が可能です。



災害対策室

●バリアフリー対応

身障者対応エレベーターの設置及び車椅子対応多目的トイレの各階への設置を行う等、福祉社会に適合するバリアフリーへの対応を図ります。

●屋上緑化

屋上には都市気候の緩和に寄与するため芝等による緑化を行います。



起工式の開催

沖縄総合事務局新庁舎の起工式が、去る二月三日に建設工事現場内にて盛大に開催されました。

式典は、竹林局長の式辞に始まり、武田内閣府審議官、寺本国土交通省大臣官房審議官の挨拶のあと、稲嶺沖縄県知事より祝辞をいただきました。また、佐藤開発建設部長による事業概要の紹介に引き続き鉄入れが行われ、最後に、渡口次長によるお礼のことで式典が締めくくられました。



鉄入れ